

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般 - 51

学校名・団体名	新城市立東郷東小学校
HPアドレス	http://www.city.shinshiro.ed.jp/togohigashi-el/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	「どの子にもわかる国語授業」 ～UDの授業実践から～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>①発達障害の疑いがある子どもに関する研究を進め、個別の支援方法や学級経営の具体的な方法について学ぶ。そして、それらの子どもたちがより楽しく学校生活を送ることができるよう努める。</p> <p>②発達障害の疑いがある子どもたちへの理解を深めるため、PTA教育講演会や研究発表会において講師による講演を行う。</p> <p>③ユニバーサルデザインの授業を研究し、国語の授業実践に生かすことにより、発達障害の疑いがある子どもたちだけでなく、全ての子どもたちにとって分かりやすく楽しい授業の実現を図り、学力向上を目指す。</p>	

1 活動時期及び活動・研究内容

月・日	内 容
4・7	○校内現職研修 ユニバーサルデザインの研究計画（年間計画・UDの授業内容について）
4・21	○校内現職研修 学級経営案について・研究授業週間・学校訪問について・指導案形式
5・12	○校内現職研修 研究授業日程・学校訪問指導案の内容確認
5・13	○研究授業（1年月組・6年月組）
5・16	○校内現職研修 学校訪問全体授業指導案検討会Ⅰ
5・17	○研究授業（梅組）
5・18	○研究授業（4年月組）
5・19	○研究授業（通級指導教室・ゆり組）
5・23	○校内現職研修 学校訪問全体授業指導案検討会Ⅱ 事後検討会の進め方について ○研究授業（2年月組）
5・26	●山本理絵先生をお迎えしての校内現職研修会 （3年月組・5年月組授業参観・学級経営案ご指導）
5・30	◎学校訪問 全学級授業公開 指定授業（2年月組） 事後検討会 県教委・市教委ご指導
6・20	○校内現職研修 研究要項執筆内容の検討会 （焦点化・視覚化・共有化・文学の系統指導表について）
6・30	○校内現職研修 研究要項原稿審議Ⅰ 研究会当日公開授業単元計画Ⅰ
7・7	○校内現職研修 研究要項原稿審議Ⅱ 研究会当日公開授業単元計画Ⅱ 桂 聖先生をお迎えしての校内現職研修会日程等提案
7・13	○研究要項原稿提出（1次原稿）
7・14	○研究要項原稿提出（2次原稿）
7・15	◎研究要項原案印刷・研究会当日授業構想案印刷 研究会一次案内作成
7・26	●筑波大学附属小学校 桂 聖先生をお迎えしての校内現職研修会 （研究要項・研究会発表用プレゼンテーション・研究会当日授業構想案についてのご指導）
7・29	○校内現職研修 桂 聖先生のご指導を生かした今後の実践について 研究要項原稿修正
8・10	○校内現職研修 研究会当日授業指導案執筆計画Ⅰ 研究会当日体育館掲示物の作成計画
8・11	◆第1回授業のユニバーサルデザイン研究大会 in 愛知参加（4名）
9・8	○校内現職研修 研究会当日授業指導案執筆計画Ⅱ（原稿執筆開始）
9・12	○校内現職研修 研究会当日授業指導案原稿審議Ⅰ 研究要項個人実践記録最終版完成 平成28年度「実践報告No.61」執筆計画Ⅰ
9・16	○研究要項完成
9・30	●PTA教育講演会 講師：京都文教大学 岡本 浄実准教授 演題「メディアとの関わり方～睡眠の質を考える～」
10・27	◎研究発表会 公開授業・授業者と語る会・講演会（山本理絵先生）【参加者：90名】
11・10	○校内現職研修 「実践報告No.61」執筆計画Ⅱ（2学期の実践記録執筆・研究のまとめ）
12・1	○校内現職研修 「実践報告No.61」原稿審議Ⅰ
12・8	○校内現職研修 「実践報告No.61」原稿審議Ⅱ
12・23	◆授業のUD学会東海支部研修会・本校UD実践研究発表（講師として2名参加）
2・7	「実践報告No.61」発行



2 活動・研究内容

(1)インクルーシブ教育の推進

発達障害の疑いがある子どもの理解と個別の支援を研究

◆講師：愛知県立大学教授 山本理絵先生

ア 発達障害について

年間を通して2回指導・講演を実施

○5月26日：校内現職研修会講師（授業参観・講話）

○10月27日：研究発表会講師（授業参観・講演）

イ 具体的な指導内容

・インクルーシブ教育の学級経営（校内現職研修会）

・インクルーシブな学級づくり・授業づくり

—ユニバーサルデザインの視点と合理的配慮—（研究発表会講演会）



(2)ユニバーサルデザインの国語科の授業実践を研究

◆講師：日本授業UD学会理事長、筑波大学附属小学校教諭・桂聖先生

ア 桂先生の書籍に学ぶ

・特に「焦点化」、「視覚化」と「共有化」について「個別の支援」「個に特化した指導」、さらには「文学の系統的な指導方法」について学んだ

イ 桂先生に来校していただき、直接指導を受けた

・校内現職研修会（7月26日）

※研修内容：研究発表会当日の授業構想案指導・研究要項原稿指導（研究概要等）

ウ 学校訪問において、愛知県教育委員会・新城市教育委員会より指導を受けた（5月30日）

エ 授業研究会の実施

・1学期に全員が研究授業を1回実践した。

・研究発表会では全員が授業を公開し、国語科文学教材におけるUDの手法を取り入れた授業力の向上と発信をはかった（10月27日）

※こうした研究成果を、本年度の研究としてまとめ、「実践報告No.61」を編集・発行した。

3 活動・研究の成果

(1) 楽しく学び合い・わかりやすい授業の実現

発達障害の疑いがある子どもを含めた全ての子どもが、UDの授業により楽しく学び合う授業を目指した。2学期の単元終了後の子どもへのアンケート調査では、単元学習が「楽しかった」「まあまあ楽しかった」と答えた子どもの割合は、1～4年生と特別支援学級で100%。5・6年生で90%以上であり、ほとんどの子どもが「楽しく学び合えた」と実感している。また、年度末の「学校アンケート（児童調査）」の中の「授業は分かりやすかったですか」という質問には、「とてもわかりやすかった」72%、「まあまあわかりやすかった」23%で、合計95%の子どもが「わかりやすかった」と実感している。これはUD授業の効果の表れではないかと考える。

(2) 家庭への理解の広がり

また、授業参観や行事への参加を通して、保護者には「インクルーシブな学級経営」と「UDの授業」を見ていただいた。年度末の「学校経営アンケート（保護者調査）」の結果は以下のようであった。

○お子さんは安定した心で学校に通っていますか。

「そう思う」59.5%「どちらかと言えばそう思う」37.8%：合計97.3%

○お子さんの学級は、温かな雰囲気のある学級である。

「そう思う」51.9%「どちらかと言えばそう思う」43.2%：合計95.1%

○東小は授業の充実（学力向上）に力を注いでいる。

「そう思う」44.9%「どちらかと言えばそう思う」50.3%：合計95.2%

○授業参観での授業は良好である。

「そう思う」55.7%「どちらかと言えばそう思う」42.7%：合計98.4%

○東小の職員は児童の様子をよく観察し、適切に対応している。

「そう思う」43.2%「どちらかと言えばそう思う」48.6%：合計91.8%

上記の結果より、研究の効果を保護者の皆様に概ね理解していただくことができたのではないかと考える。

(3) 本校以外の教師への研究の理解の広がり

10月27日の研究会終了後の参観者へのアンケート調査には、以下のような感想が多く寄せられた。

・どの子にもわかる授業を目指して、先生方の教材研究のすごさを感じました。私もみんなが参加でき、活発な授業ができるといいです。ですが、教材のことをよく理解していなければ、こんな素晴らしい授業はできないと思うので、難しさを感じました。少しずつやってみたいです。

・どの児童でも、わかる！できる！楽しい！と思える授業とは、一人ひとりの学習意欲が高まり、姿勢や表現が変わることだと改めて感じました。また、ユニバーサル授業を積み重ねていくと一人ひとりの学力もそうですが、人間関係調整力にもつながると思いました。互いが互いを思いやり、助け合える環境があるとプラスになると思います。今日学んだユニバーサルデザインの授業を目指し、様々な教科に取り組んでいきたいです。

これらの感想から、子どもの姿を通して本研究の効果が他校の教師にも理解されたことが読みとれた。今後は他校・他地域へのさらなる実践の広がりが期待できる。